

キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

深谷の地酒を市内外にPR



深谷銘醸会
丸山和崇さん
(丸山酒造(株))
深谷の地酒を
世界へ!

「深谷は利根川と荒川という日本を代表する2つの河川に囲まれ、その支流も多い、水に恵まれた地域です。その恵みの中で、市内に複数の酒造会社がある深谷は、県内でも珍しい存在なんですよ。」と語るのは、『深谷銘醸会』の丸山さんです。深谷銘醸会は、市内の3酒造(丸山酒造(株)、滝澤酒造(株)、(有)藤橋藤三郎商店)が先代の頃から手を取り合って結成し、深谷の地酒を盛り上げていこうとする歴史ある会です。

しかし、近年は「日本酒に限らず、国内のお酒の消費量は全体的に下降傾向にあります。」と丸山さんが語る通り、国内消費では日本酒業界が置かれた現状は厳しい状況にあります。そこで、深

谷銘醸会では、市内外でさまざまな取り組みを進め、新しい日本酒ファンの獲得を目指しています。例えば、平成28年の深谷市産業祭では『FUKAYA SAKE Collection (ふかや酒コレクション)』を開催し深谷の地酒のPRをしました。また、『深谷ものづくり博覧会』では子どもも楽しめる利き水体験をするなど、日本酒の消費拡大を目指すのみならず、日本酒造りを育んだ深谷の水環境をPRして、広い世代に日本酒文化の裾野を広げる活動を行っています。

今後は「深谷銘醸会で切磋琢磨しながら、海外への販路も積極的に開拓し、深谷のお酒をPRしたいですね。」と語る丸山さんの目は、日本酒文化の未来を見据えています。



▲深谷銘醸会の皆さん。深谷の地酒の魅力発信のために、日々活動をしています。

数字でみつけた!

深谷のイイトコ♡

FUKAYA

ふるさと納税
寄附受入額
約128倍

FUKAYA

制度リニューアル前後
(平成26年度と平成
28年度)の比較



第10回 『ふるさと納税』で深谷の力を発掘!

深谷市は平成27年7月にインターネットサイトを利用したふるさと納税を始めました。寄附額は、平成26年度の230万円から平成28年度の約2億9,600万円に大きく伸び、県内トップクラスとなっています。

寄附者へのお礼品も、市内の事業者が開発した商品、近隣市町の伝統産業と市イメージキャラクターふっかちゃんとの共同企画による商品など、魅力あふれるものばかりです。さらにインターネットでも購入できるようにするなど、単なる『お礼品競争』だけで終わらない地域の活力を生み出す仕掛けがあります。



▲新たに市内事業者により開発された商品。大手通信販売会社の販売網を活用して、全国のかたに向けてカタログを送付しています。

ふっかちゃんの日常から
深谷が見えてくる

ふっか 散歩



岡尾高惇忠生家

渋沢栄一翁の論語の先生でもある、尾高惇忠さんが生まれたお家に来たよ! 惇忠さんは栄一翁にすこく影響を与えたほかにも、富岡製糸場の初代場長としても活躍をしたんだって。ボランティアさんがいっぱい教えてくれたよ!



▲尾高惇忠生家の2階は、若いころの栄一翁と惇忠さんが、高崎城を乗っ取ろうと計画したといわれている場所なんだから! 一般公開はしていないから、今回は特別に写真を載せるよお!



▲尾高惇忠生家では、『渋沢栄一翁と論語の里ボランティアの会』の皆さんが説明してくれるよ! 会の皆さんは、日頃から歴史の勉強をしていて、ドンドン情報を増やしているから、何回行っても新しい発見があるかもねえ~!

ふっかちゃんのつぶやき

明けましておめでとう~! もう新年の抱負は決まったかなあ? 2018年☆ワンダフルな1年にしようねえ♪ Y(o0ω0o)Y



心の広場

岡部中学校3年
小林 未依さん

いじめをなくす為に

先日、私はあるニュースを見ました。それは、ある中学生の男子生徒が自殺したというニュースでした。その原因はいじめでした。そのとき私は、他人事としてそのニュースを見ただけになってしまいました。

学校へ行くといつものように友達におはようと言うと、仲の良い子の所へかけよりました。いつものように授業を受け、給食を食べ、友達と笑い合っていました。このときの私は、この毎日があたりまえだと思っていました。

ある日の授業で、「奪われている権利」という人権についての学習をしました。そこには栄養不足の子どもやストリートチルドレンなどの写真があり、子どもの権利条約を守っている写真はありませんでした。例えば、第六条、全ての子どもは生きる権利を持っています。生きる権利を持っているにも関わらず、命の危険があったり、命を自ら落としたりする子どもがいるということはとても大変なことだと知りまし

た。そこで、私の生活はあたりまえではないことがわかりました。それと同時に、自分のことしか考えられていない、という自分の姿に気づかされました。自分が楽しければ人はどうでもいい、そんな考えをどこかに持っていたのかもしれない。自殺してしまった男子生徒のまわりにも、同じような考えの人がいたのかもしれないと思うと、悲しくなりました。

自分のためだけではなく、友達や家族、地域の人へ、日ごろから感謝の気持ちを持つことで、自分中心ではなく、まわりに支えられているということを知ることができるのではないかと思います。

私はこの人権週間に、少しでもいじめや悲しむ人がなくなるよう、感謝の気持ちをいつも持ち続けたいと思います。そのために、自分が感謝をしてもらえるように、困っている人がいたら自分から一言をかけることを心がけたいと思います。

私の知らない所でもいじめや差別による自殺などが起きています。いじめをなくすためには、まわりの人が変わっていく必要があります。そのきっかけを自分自身がつくっていくけるよう、三つの事を心がけたいと思います。感謝の気持ちを忘れないこと。相手の気持ちになって考えること。やさしい一言を自分から。これからの生活でやさしく、感謝される人になりたいと思います。